

老人と障害者の自立のための

40周年記念

40th 国際福祉機器展 Int. Home Care & Rehabilitation Exhibition 2013

会 期：2013（平成25）年9月18日（水）～20日（金）

会 場：東京ビッグサイト 東展示ホール（東京都江東区有明）

出展社数：585社・団体（日本526社・団体、海外59社）※見込み

開場時間：午前10時～午後5時 入 場 料：無料（登録制：当日または事前）

主 催：全国社会福祉協議会 保健福祉広報協会

【開催内容】（予定）

40周年を迎える国際福祉機器展 H.C.R.2013 では、高齢者や障害者の自立と社会参加の促進と、家庭や福祉施設での介護の質の向上を目的に、杖・車いす・福祉車両、入浴・トイレ、住宅改造機材などの福祉機器、高齢者むけ食品や衣類など日常生活を支えるさまざまな生活用品を総合展示します。

また、最新の福祉・介護・リハビリなど役に立つ情報を以下のような多彩なセミナーなどの企画・イベントをつうじて、福祉関係者、企業関係者、そして一般の方々に提供いたします。

①福祉機器約20,000点を総合展示 **WEBにて来場者登録の受付を開始しました！**

②国際シンポジウムを開催（9月19日） **WEBにて参加申込の受付を開始しました！**

③H.C.R. セミナーを開催（9月18～20日） **WEBにて参加申込の受付を開始しました！**

福祉職から一般、福祉利用者、家族までをそれぞれ対象として、保健・福祉・介護をテーマに連日開催。

④出展社によるプレゼンテーション

⑤H.C.R. 特別企画

(1) 障害児のための「子ども広場」：

子ども用福祉機器の展示に加えて、子どもにあった福祉機器の利用や療育についての相談コーナーや、保育士が常駐するひとやすみコーナー、新企画「親子で楽チン！ ワクワク！ 入浴グッズ体験コーナー」などを設けます。

(2) ふくしの相談コーナー

福祉機器や自助具などの相談コーナーを設置します。

(3) 知っているところなのに便利！～身の回りにおけるテクノロジー（アルテク）で創る豊かで楽しい生活

誰もが日常活用しているスマホ、タブレット、ICレコーダーなどのICT（情報通信技術）製品について、障害のある人の生活や学習支援に活かすさまざまなアイデアを紹介します。

(4) 高齢者・障害者の生活支援用品コーナー～生活に便利なグッズ、その知られざる歴史とノウハウ「目からウロコ展」

高齢者や障害者の日々の生活を便利にするグッズや工夫がなされた製品を紹介します。

(5) 福祉機器開発最前線

現在開発中の製品や新発表の福祉機器について、デモンストレーション・集中展示を行います。

(6) 被災地応援コーナー

東日本大震災で被災した東北地方のセルプ（障害者授産施設）製品を販売します。

⑤40周年特別企画

H.C.R.40周年記念パネル展示

その他にも、多彩なプログラムを実施予定。

I 国際シンポジウム

テーマ「活力ある高齢化と世代間連帯へのドイツの挑戦

～公的年金をめぐるパラドックスの解決策となるか?～【1】手話通訳

わが国では将来にむけて少子高齢化が急進し、年金や医療・介護、子育てなどの需要をふまえた供給をはかっていることが急務とされ、来年4月からは消費税の引き上げによるその財源確保も予定されています。

とりわけ、介護ニーズが急増していくために、現状8.9兆円の2倍相当の介護保険の財源をはじめ、介護人材についても100万人増員させることが必要とされています。

そこで、H.C.R.2013では、1994年に介護保険を導入したドイツから講師を招いて、同国やEU諸国での介護や高齢者福祉の現状と、今後の高齢化のさらなる進行によって深刻化することが予想される高齢者政策の方向について、特に年金問題を中心とした具体的なレポートをいただき、それをもとに超高齢化へと向かうわが国の介護・医療などの社会保障制度の改革の動きとあり方について、考察いたします。【日英同時通訳付】

○開催日時：平成25年9月19日（木）13：00～16：00

○会場：東京ビッグサイト会議棟6F

○参加者：高齢化社会の課題や政策・制度に関心のある方であれば、どなたでも参加いただけます。

○講師：Manfred Wienand（マンフレッド・ヴィーナント）氏

SRH ハイデルベルク大学 社会法教授、元ドイツ公私福祉連盟事務局長

○チューター：近藤 純五郎 氏

一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会理事長、弁護士、元厚生労働事務次官

○参加費：1,000円

○参加申込方法：H.C.R.Webサイト (<http://www.hcr.or.jp>) からの事前申込となります。

○定員（250名）になり次第締め切らせていただきます。

【講義要旨】

1. ドイツとヨーロッパ

- ①ドイツの年金制度は世界初の公的年金制度であった。
- ②ドイツは欧州連合（EU）加盟国であり、労働者の移動の自由の推進が社会保障に影響を与えており、たとえば、居住国以外の国で働く従業員の問題が生じた。また、続いて、老齢年金への影響なども現れた。
- ③日本も欧州も共通の課題として、出生率の低下と社会の高齢化、そして2008年以降の金融業界と経済危機からの衝撃波に直面している。これに先立って生じていたのが、よく知られていながら部分的にしか対策が取られてこなかった、人口の高齢化による課題である。

2. 活力ある健康的な高齢化

- ①高齢者の生活の質についての主なトピックとなるのは、健康的な（活力ある）高齢化をいかに推進するかである。
- ②金融危機が健康と福祉に与える影響は景気の減速が大きかった地域ほど大きく、多くの人が、より長く働くことで金融危機による経済的圧力に対抗した。
- ③「欧州における健康・高齢化・退職の意識調査」によると、経済危機は高齢者の健康に悪影響を与え、特に失業率が上昇している地域で顕著で、低教育・低所得・不健康・独身の女性が特に影響を受けた。
- ④この悪影響を軽減するには、家族と友人が重要な役割を担い、活力ある健康的な高齢化は、社会ネットワーク、より一般的にいうと、社会的一体性の拡大と緊密化によってもたらされる。

3. 制度と法体系の重要な役割

- ①ドイツでは、社会国家の原理が政府に向けられているだけでなく、市民の結束と社会活動をとおして実現されている。その手段は、個人と集団の自助と、必要な場合の人的支援の提供である。集団による結束の具体的な形態の一つは、社会保険のシステムであり、これは、病気、障害、介護、高齢化といった人生の主なリスクに対して保護を提供するよう設計されている。
- ②社会的結束の必要性は、ドイツ連邦共和国基本法をはじめ、国内の諸法に反映されている。

4. ドイツの年金保険

- ①ドイツの退職年金制度の給付金は、単なる必要最低限のものから生活水準を守るレベルへと発展してきたが、今後は、資金調達という深刻な問題に直面するはずである。
- ②2005年10月1日以降、各年金保険機関はベルリンのドイツ年金保険組合という共通の傘の元に統合されている。
- ③高齢者給付の柱 ④「リースター年金」の導入

5. 公的年金制度の改革

- ①属地主義：欧州連合（EU）内部での社会保障分野に対する一般的傾向
- ②「非保険給付金」について
- ③ドイツの退職保険は完全積立式としてはじまり、2001年の改革では、画一的なビスマルク式公的保険制度を、複数の柱からなる複合的な制度に転換。最後に2004年の改革では、賦課方式の柱を「擬似みなし掛金建て」の制度に転換した。
- ④「ドイツ社会保険制度の資金調達の持続性に関する委員会」の改革案も大きな状況変化のなかに置かれ、失業率が予想以上に上昇し、ドイツ経済も低調で成長率が極めて低下したため、年金制度が短期的に財政危機に陥り、資金調達の懸念が高まって、改革は喫緊の課題となっていった。

6. 年金ギャップ

- ①年金ギャップとは（OECD、2011年）
- ②国ごとの年金受給年齢の違いから受ける影響 ③平均余命の違いから受ける影響
- ④年金受給資格は、従業員のキャリアのなかでの失業の回数と長さに強い影響を受ける傾向
- ⑤構造的変化、年金・社会制度の現在の改革、生活費の上昇が購買力の低下と重なることで、老後に貧困のリスクに直面する人の割合が増加している。

※ 講義要旨の詳細版を、HCR Webサイト (<http://www.hcr.or.jp>) に掲載しています。

II H.C.R.セミナー

H.C.R.2013では、わが国の保健福祉・介護・医療分野におけるさまざまな課題についての関連最新情報の提供や、福祉・介護職の資質向上をはかるための「H.C.R.セミナー」を開催します。

今年は、地域で生活されている高齢者の住まいや介護に関わる情報のほか、介護・福祉施設の現場で実践されているサービス向上のための工夫事例の発表や、質を高めるための知識や技術などを学んでいただく講座もさらに充実させて構成しています。ぜひ、ご参加ください。

○開催日：2013年9月18日(水)～20日(金)

○会場：A. **【2】**～**【6】**は、東京ビッグサイト・会議棟6階「605-608会議室」

※9月18日(水)13:30～16:00の**【3】**のみ、7階「701-702会議室」との並行講義で実施します。

※A. **【2】**～**【6】**は原則として事前の申込(当日受付も若干ございます)が必要です。

また、セミナー共通資料(1部1,000円)を販売します。

B. **【7】**は、東京ビッグサイト・東3ホール内「特設会場A」(自由参加、先着順)

C. **【8】**は、東京ビッグサイト・東6ホール内「特設会場C」(自由参加、先着順)

◆A. 【2】～【6】のプログラム（予定）…共通資料（1部1,000円により講義）

9月18日（水）

時間	テーマ	対象者	会場
11:00～12:30	介護で腰痛にならないための基本技術を学ぶ ～ボディメカニクスの理解と活用【2】	一般、福祉サービス 利用者・家族むけ	会議棟 6F
13:30～16:00	福祉施設の実践事例発表～役立つ活かせる 実践研究、工夫とアイデア【3】	介護・福祉職むけ	会議棟 6F・7F

9月19日（木）

時間	テーマ	対象者	会場
10:30～12:00	超高齢社会のまちづくり ～柏市豊四季台地域での取り組みをつうじて【4】	一般、福祉サービス 利用者・家族むけ	会議棟 6F

9月20日（金）

時間	テーマ	対象者	会場
11:00～12:30	福祉施設での感染症の知識と対応 ～知っておきたい感染症対策のポイント【5】	介護・福祉職むけ	会議棟 6F
13:30～15:30	再生可能エネルギーの活用による障害者雇用の促 進～エネルギーの地産地消に貢献する福祉施設【6】	介護・福祉職むけ	会議棟 6 F

1. 会場は変更となる場合があります。

◆A. 【2】～【6】のプログラムの詳細（予定）

9月18日（水）

介護で腰痛にならないための基本技術を学ぶ～ボディメカニクスの理解と活用【2】 手話通訳

腰痛は介護する方々にとって大きな課題です。リフトなど機器の使用、住環境の改善、介護者の体力改善、適正な介護の仕方（技術）の習得など腰痛にならないための工夫はいくつかあります。介護をする方は、これらの要素を組み合わせることで腰痛予防をおこなっていく必要があります。

ボディメカニクスは介護時の適正な姿勢や動作を確保し、介護する側・される側双方にとって楽に安定させる技術です。実演をもって、わかりやすく説明します。

○会場 会議棟 6F 605～608 会議室 定員 250名

※事前申込あり。定員になりしだい締め切らせていただきます。

○主な参加対象者：在宅で介護を行っている方、新任介護職員・ホームヘルパーなど

○日時 9月18日（水）11:00～12:30

○講師 青柳 佳子 氏 目白大学短期大学部 生活科学科 専任講師

福祉施設の実践事例発表～役立つ活かせる実践研究、工夫とアイデア【3】

介護・障害者・児童福祉施設の現場では、スタッフが日々の利用者への援助・支援においてさまざまな創意・工夫を行うことによって、福祉サービスの改善、質的な向上がはかられています。こうした創意・工夫は、全国の福祉施設で活かせるアイデアとノウハウです。

本講座では、創意・工夫の情報を共有することで、福祉サービスの質の向上をはかることを目的として、福祉施設での実践事例、研究発表を紹介します。

1) 福祉施設におけるマネジメントと地域貢献の取り組み

- 会場 会議棟 6F 605～608 会議室 定員 250 名
※事前申込あり。定員になりしだい締め切らせていただきます。
- 主な参加対象者：介護・福祉施設関係者など
- 日時 9月18日（水）13:30～16:00
- 発表事例（予定）
 - 「当施設における研修制度の変更とその影響」
 - 「エーデル土山のリスクマネジメントシステム」
 - 「美しい地域社会を築こう誠幸園の取り組み」
 - 「施設の特徴を活かす地域貢献」
 - 「社会福祉懇談会における日本経営品質賞勉強会の取り組み」

2) ケアの場面における創意・工夫

- 会場 会議棟 7F 701～702 会議室 定員 90 名
※事前申込あり。定員になりしだい締め切らせていただきます。
- 主な参加対象者：介護・福祉施設関係者など
- 日時 9月18日（水）13:30～16:00
- 発表事例（予定）
 - 「乳幼児用座位保持用具の工夫と製作—空箱段ボールと紙管（ラップフィルム芯）で作製—」
 - 「おいしい！ 安全！ 粥ゼリー～口腔ケア後の嚥下調整食への取り組み～」
 - 「在宅介護を支える、家に帰りたい、また来たい」
 - 「1年間の生活について～たくさんの笑顔をありがとう～」
 - 「ヘルパーの痰吸引対応について～みんなで手をつないで～」

※1)と2)は2つの会場に分かれて開催します。

参加を希望される会場の受付を同日（9月18日）12:30より先着順にて行います。

9月19日（木）

〔新〕超高齢社会のまちづくり～柏市豊四季台地域での取り組みをつうじて【4】 **手話通訳**

2030年には3人に1人が高齢者になるとの予測が公表されるなど、超高齢化に向かうわが国において、将来の人口構造の変化は都市であれ、地方であれ大きな環境変化をもたらします。したがって、さらなる少子高齢化社会に向けた暮らし方や、まちづくりを描くことは避けることのできない重要な課題であります。

現在、千葉県柏市豊四季団地において柏市、東京大学高齢社会総合研究機構、UR都市機構が共同で医療・看護・介護、就労、住まいなどを網羅した急激な都市高齢化に向けての本格的なプロジェクトが進められています。そうした取り組みの状況と課題に注目し、長寿社会のなかでのわが国でのまちづくりの創造について考える機会とします。

- 会場 会議棟 6F 605～608 会議室 定員 250 名
※事前申込あり。定員になりしだい締め切らせていただきます。
- 主な参加対象者：高齢社会問題に関心のある一般の方々、福祉・行政関係者
- 日時 9月19日（木）10:30～12:00
- 講師 辻 哲夫 氏 東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授

9月20日(金)

福祉施設における感染症の知識と対応～知っておきたい感染症対策のポイント【5】

福祉施設は利用者が集団で生活する場であり、感染症に対するきめ細かな配慮は欠かすことができません。特に高齢者や障害者は感染すると症状が非常に重くなることもめずらしくありません。福祉施設職員は感染症に対する正しい知識をもち、その予防に努めるとともに、発症時における適切な対応が求められます。

本講座では、高齢者・障害者施設における日常の感染症に関する知識と予防、発症後の対応策について学びます。

○会場 会議棟 6F 605～608 会議室 定員 250 名

※事前申込あり。定員になりしだい締め切らせていただきます。

○主な参加対象者：介護・福祉施設関係者のほか、テーマに関心のある一般の方々

○日時 9月20日(金) 11:00～12:30

○講師 小坂 健 氏 東北大学大学院 歯学研究科 副研究科長

【新】再生可能エネルギーの活用による障害者雇用の促進～エネルギーの地産地消に貢献する福祉施設【6】

東日本大震災以降、再生可能なエネルギーの開発、地域のお金を循環させるエネルギーの地産地消の試みなど、地域経済を活性化させる新たなエネルギー政策が進められています。そのなかで、社会福祉施設などがエネルギー供給側の一員として活躍し、また、消費者・大口需要者として貢献する事例が増えています。

再生可能なエネルギーで地域経済に活路を見いだそうとする社会福祉団体、ベンチャー企業などの取り組みについて紹介します。

○会場 会議棟 6F 605～608 会議室 定員 250 名

※事前申込あり。定員になりしだい締め切らせていただきます。

○主な参加対象者：介護・福祉施設関係者のほか、テーマに関心のある一般の方々

○日時 9月20日(金) 13:30～15:30

○事例発表者等

1. 基調講演

炭谷 茂 氏 社会福祉法人 恩賜財団済生会 理事長

社会福祉施設等の環境の取り組みに関する研究会 委員長

一般財団法人地球・人間環境フォーラム 理事長

2. 事例発表

①水木 伸明 氏 北陸グリーンエネルギー研究会 事務局長

アルミを利用して水素ガスを作り、水素電池をエネルギーとする運輸システムの研究と実践。食品容器に使われているアルミ箔を回収する現場で知的障害者が働いている。

②古川 正司 氏 (株)さいかい産業 取締役

新潟市内でペレットストーブの製造・販売にあたっているが、その部品づくりに知的障害者が参加。東日本大震災では、石油などのない被災地に、地元のエネルギーであるペレットと自ら開発した専用ストーブを被災地に届ける。エネルギー地産地消を目指し、同時に障害者の職場づくりに奔走。

③本多 佳美 氏 NPO 法人 新潟プチトマトあおぞらポコレーション 代表

障害者の働く場を確保するため、県内企業からの共同受注の方式を採用。お菓子や豆腐づくり、再生エネルギーのペレットづくりなど多様な仕事を開拓し、障害者の処遇改善を図っている。

3. 司会・進行 社会福祉施設等の環境の取り組みに関する研究会

◆B. 【7】のプログラム（予定）…副読本を販売(1冊100円、3種類)、自由参加、先着順

特設会場A（東3ホール内）

はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー【7】手話通訳

「基本動作編」「住宅改修編」「自立支援編」の3編をさらに10のテーマに分類し、以下の時間帯でセミナーを開催します。

18日 (水)	11:00～12:00 「住宅改修」 首都大学東京 大学院 人間健康科学研究科 准教授 橋本 美芽 氏		13:00～14:00 「トイレ・排泄用品」 NPO 法人 日本コフネス協会 牧野 美奈子 氏		15:00～16:00 「入浴機器」 高齢者生活福祉 研究所所長 ／理学療法士 加島 守 氏	
19日 (木)	11:00～12:00 「ベッド」 神戸学院大学 総合リハビリテーシ ョン学部医療リハビ リテーション学科 教授 古田 恒輔 氏		12:30～13:30 「リフト等移乗用品」 神戸学院大学 総合リハビリテーシ ョン学部 医療リハビ リテーション学科 教授 古田 恒輔 氏		14:00～15:00 「杖・歩行器等 補助用品」 高齢者生活福祉 研究所所長 ／理学療法士 加島 守 氏	15:30～16:30 「車いす」 公益財団法人 武蔵野市福祉公社 作業療法士 堀家 京子氏
20日 (金)	11:00～12:00 「福祉車両」 国立障害者リハビリテー ションセンター自立支援局 自立訓練部 機能訓練課 自動車訓練室長 熊倉 良雄 氏 国立障害者リハビリテー ションセンター 主任理学療法士 吉田 由美子 氏		13:00～14:00 「コミュニケーション 機器」 東京大学 先端科学技術研究セ ンター 人間支援工学分野 教授 中邑 賢龍 氏		15:00～16:00 「自助具」 ヒューマン ユニ バーサルデザイ ンオフィス 代表 岡田 英志 氏	

※定員 200名

※主な参加対象者：高齢者、障害者及びその家族、新任介護職員、福祉機器企業関係者、学生など

※はじめての福祉機器選び方・使い方セミナーの副読本として、「基本動作編」「住宅改修編」「自立支援編」の3種類を会場にて販売しています。1冊100円です。

◆C. 【8】のプログラム（予定）…自由参加、先着順

特設会場C（東6ホール内）

高齢者むけの手軽な日々の食事～惣菜やレトルト食品をおいしくバランスアップ【8】手話通訳

高齢者の一人暮らしや高齢者夫婦世帯が増えています。こうした世帯では、長寿化が進むにつれて、毎日の食生活のために料理をつくることも、栄養バランスを考えて手間をかけることも大変なことです。

そのため、日々の食事を市販のお弁当などですませる方も多くなっています。そこで、コンビニの弁当やスーパーの惣菜・レトルト食品などをもとにして、ひと工夫を加えることによって、簡単に、豊かに、かつ、栄

養のバランスがとれる毎日の食事のつくり方を、実演を交えて紹介します。

- 講師 虎の門病院栄養部
- 定員 200名（※自由参加、先着順にご案内いたします。）

*この講座は、H.C.R.特別企画「福祉機器開発最前線【13】」と同じ「特設会場 C」で開催します。時間割は以下のとおりとなります。

***「特設会場 C」のセミナー・デモンストレーション開催予定表**

18日 (水)	11:00~12:30 福祉機器開発最前線・デモ		13:00~14:00 高齢者むけの手軽な日々の食事		14:30~16:30 福祉機器開発最前線・デモ
19日 (木)	11:00~12:30 福祉機器開発最前線・デモ		13:00~14:00 高齢者むけの手軽な日々の食事		14:30~16:30 福祉機器開発最前線・デモ
20日 (金)	11:00~12:30 福祉機器開発最前線・デモ		13:00~14:00 高齢者むけの手軽な日々の食事		14:30~16:30 福祉機器開発最前線・デモ

H.C.R.2013 新製品の紹介/福祉機器ガイドブックより

エフ・アイ・ティー・パシフィック(株) 3D通気クッション【移動機器】 18,690円

～背もたれ付車いす用クッション～

体が密着する表面と湿気がこもる内部に多くの空気層をつくり、座面も背中も湿気がこもりにくく、通気性に優れたクッションです。カバーも中材も簡単に洗えて、いつも清潔に使えます。

㈱クラモト フリーライダーLuggie (ラギー)【移動機器】 298,000円(非課税)

～新時代の折りたたみ式モビリティスクーター～

画期的なモビリティスクーターが誕生しました。重量はわずか 23.5kg で、折りたためばコンパクトカーにも積載可能。折りたたみとセットアップは、慣れれば 10～20 秒で可能です。キャリングケースに収納すれば、空港や鉄道にも手荷物として持ち込み可能です（*各事業者で対応が異なりますので、個別にご確認ください）。

マッスル(株) ROBOHELPER LOVE【トイレ・おむつ用品】

～介護する人もされる人も、優しさと安心を。そしておしゃれに～

特殊センサーにより大便・小便を自動で判別し、吸引・洗浄・除菌運転を自動で行います。洗浄水は、洗浄時のみ温水となるよう設計されており、洗浄工程の最後に除菌水洗浄されるため、臭気・カビ・汚れの付着なども防ぎ、お手入れがとて楽。コンパクトデザインで多くのハイテクノロジーと総合デザインで日常用としてまとめました。

*上記の製品は、H.C.R.2013 福祉機器ガイドブックにお申込みいただいた新製品のなかから、掲載内容が確定したものを順次社名アイウエオ順で紹介したものです。特段の選考によるものではありません。

※注1: この内容は平成 25 年 8 月 9 日時点での予定です。内容や日程は予告なく変更する可能性がありますので、ご来場の際は最新情報をご確認ください。

※注2: 各プログラムへの最新のご参加内容については、H.C.R. Web サイト(www.hcr.or.jp)で順次ご案内します。

<p style="text-align: center;">H.C.R. 2013 事務局 (財)保健福祉広報協会 〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル 5F TEL. 03-3580-3052 FAX. 03-5512-9798 http://www.hcr.or.jp</p>
